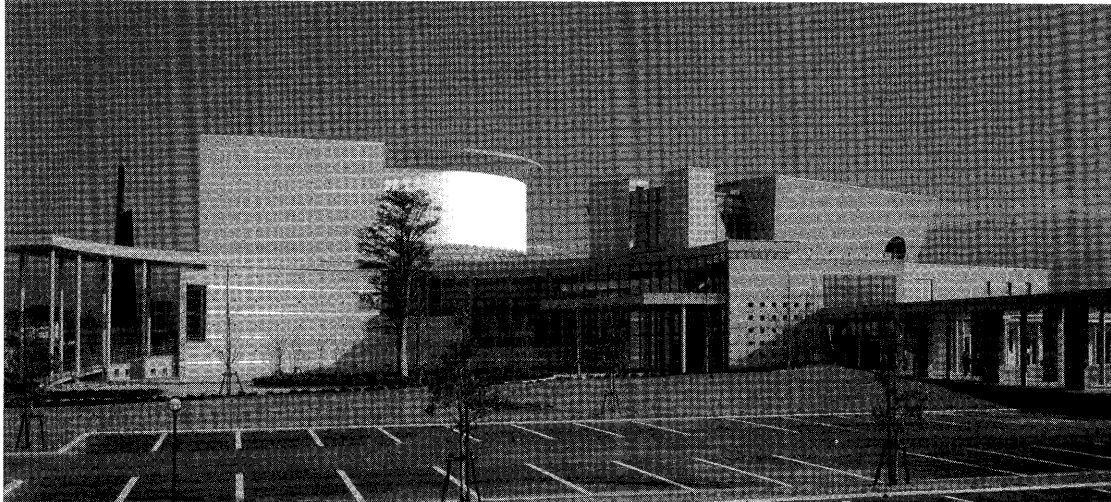


3. 黒部市国際文化センター(コラーレ)

● ホールの全景



● ホールの概要

施設名	黒部市国際文化センター(コラーレ)		
所在地	〒938-0031 富山県黒部市三日市 20		
TEL/FAX	TEL: 0765-57-1201 / FAX: 0765-57-1207		
運営母体	(財)黒部市国際文化センター		
立地都市の人口	3万6,706人		
施設構成・規模	ホール施設	カーターホール(886席):多目的、プロセニウム+音響反射板 マルチホール(208席):多目的、平戸間形式	
	その他施設	展示施設(展示室-2室、創作室-2室) 学習ゾーン(会議室、図書室-閲覧20席、相談コーナー、児童コーナー、工芸コーナー、談話コーナー) 日本空間(大広間-28畳、和室・茶室、銀色の茶室、能舞台-300席)	
	敷地面積	37,973㎡	駐車台数 300台
	建築面積	6,736㎡	延べ床面積 8,886㎡
総事業費	66億9,000万円	建設工事費	49億4,000万円
年間自主事業費	3,000~5,000万円	自主事業公演数	11~30本
総スタッフ数	9名	新規採用者数	7名
基本理念	<ul style="list-style-type: none"> 21世紀に向け、地域の芸術、文化振興と国際化社会に対応した「国際交流盛んなまちづくり」を目指すため、地域住民が世界の人々との交流や芸術文化を通じて国際理解を深め、国際感覚を高めることができる国際交流の中核施設として国際文化センターを建設した。 		

● ホールの計画づくりの概要

<p>検討開始から開館までのプロセス</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 89年 4月:基本計画検討開始 ・ 89年12月:自治省リーディングプロジェクト(国際都市整備)に指定 ・ 92年 8月:(財)日本建築センターへ事業計画策定業務委託、設計候補者選定委員会設置→92年 9月:設計者決定 ・ 92年11月:市職員による検討会設置(～94年3月)→93年4月:専従組織設置 ・ 93年6月:管理運営計画策定を(財)日本建築センターへ委託(～95年3月) ・ 94年 3月:建設工事着工→95年10月:建設工事竣工 ・ 94年 4月:財団法人黒部市国際文化センターを設立 ・ 94年6～11月:プレイベント実施 ・ 95年11月:開館→96年3月まで使用料を無料で市民に開放
<p>設計者の選定と設計の進め方</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市長の「将来有望な若手建築家に依頼したい」との意向に基づき、(財)日本建築センターに選定を依頼。設計候補者選定委員会が設置され、15名の一次候補者から5名に絞り込み、プロポーザル(面接方式)によって選定。 ・ 設計者の「市民の使い方がわからないと設計ができない」という考え方から、基本設計に着手する前に、設計者自身が市民に積極的にヒアリングを実施し、ホールの目的や施設構成・内容等との設計与件を検討・確定していった。 ・ 別途実施された「管理運営計画」の検討結果にあわせ、度重なる設計変更を含め最終的な設計案が固められていった。
<p>設計者</p>	<p>新居千秋(㈱新居千秋都市建築設計)</p>
<p>コンサルタント</p>	<p>㈱シアターワークショップ、㈱永田音響設計(設計事務所の意見を参考に選定)</p>
<p>運営方法の検討 運営体制の整備</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 設計候補者選定委員会から、ソフトの検討にも予算をかけないという提案を受け、建築設計と並行して、「管理運営計画策定」を(財)日本建築センターに委託(委託費3,000万円)。 ・ その中で建築家、劇場コンサルタント、地元市民等からなる「国際文化センター施設運営企画会議」を組成、詳細な検討とシミュレーションが行われ、現在の運営方法や事業展開のベースが作成された。 ・ その間、事務局スタッフとして、(財)日本建築センター、新居建築事務所、シアターワークショップから各一名が専従で対応。 ・ 現在の運営スタッフ9名のうち7名は財団での新規採用者。公募・採用試験を実施したが、面接には建築家、劇場コンサルタントも対応。全国からの応募者の中からホール運営に熱意のあるスタッフを採用。
<p>開館記念事業</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ こけら落とし等の開館記念事業は一切行わず、次の3ステップで開館。 <ol style="list-style-type: none"> ① 開館2ヶ月は30数回のワークショップ、レクチャーを実施し使い方の見本を提示 ② 3ヶ月間無料開放して使い方を市民に体験してもらう ③ その後レクチャー付きコンサート等を徐々に実施
<p>計画づくりにおける特徴・課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自治省リーディングプロジェクト(国際都市整備)に指定され、当初は海外の大学誘致が計画の中心だったが、途中からホール整備が核となる。リーディング・プロジェクトは5年間という長いスパンで計画づくりができるメリットあり。 ・ 設計者、専門家、市民で構成する施設運営企画会議によるソフトづくりと設計作業が同時進行して、市民の意向が盛り込まれ、それが、コラーレ倶楽部や運営委員会という「市民参加型」の現在の運営体制整備に結びついた。計画段階から市民を巻き込んでいたため、議会からの反対もほとんどなかった。 ・ 設計者の新居氏はホール建築は初めてだったが、市民との対話を含め、氏が熱心に取り組んでくれたことも成功要因のひとつ。建築学会賞を受賞。